

児童発達支援事業所



2025. 5月号

Eメール koroiba_mori@basil.ocn.ne.jp
ホームページ <https://minnanomori.jp/>

保護者懇談会へのご参加ありがとうございました

保護者懇談会の後半では、年長グループと年少・年中グループに分かれ保護者の方との顔合わせや交流を行いました。自己紹介から始まり、子育てで悩んでいることや、在籍園での過ごし方について等の話が出ました。他のご家庭の話の聞いたり、話したりしていく中で、同じ悩みをもっていたことがわかったり、各ご家庭でどのように過ごしてきたのか、アドバイスをもらうなどそれぞれのチームで話が弾んでいましたね。懇談会の内容については、配布しました『保護者説明会及び懇談会の報告』をご覧ください。

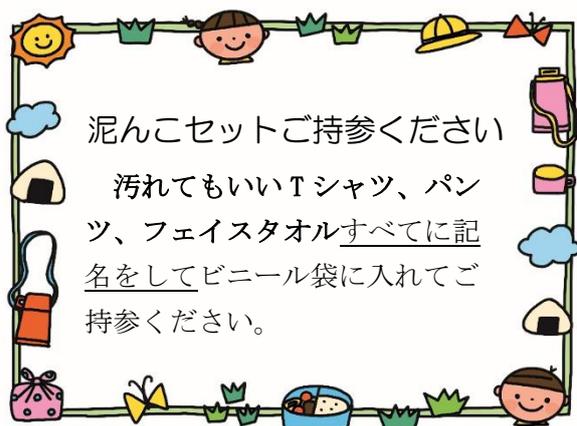
今後も行事を通して、子どもの関わりだけでなく、保護者同士も繋がりが持てるようにしていきたいと思ひますし、連絡ノートや送迎時、個別相談などでお子さんの話をたくさん聞かせて頂けたらと思ひます。



《新しい生活にはドキドキやわくわくがいっぱい！！》

新年度が始まって一カ月が経ちました。新しい環境、一つ大きな学年になったことへの喜びと不安を見せる子もいます。泣けて登園する子もころころ伊場に来て遊び始めると、すっかり笑顔になっています。「今日は何をするのかな?」「ちょっとドキドキするから見ていよう。」「やってみたら楽しかった!!」など、さまざまな感情や経験を積んでいきながら、心も身体も成長していけるように過ごしていきたいと思ひます。また、ありのままの様子を受けとめていきたいと思ひます。

・4/24 (木) 避難訓練実施しました。今後の避難訓練日はおたよりに記載します。



🌻たいよう🌻

<自分で決めることの大切さ>

4月は春らしい暖かな日が続く、園庭に出て虫探しや追いかけて楽しむ。その時のエピソードをご紹介します。園庭でたくさんのダンゴ虫を見つけたA君。担任が「そろそろお部屋に帰るよ」と声をかけると、「やだ！まだ帰らない」と言い、黙々とダンゴ虫の観察を続けていました。もう一人の担任が「もう帰る時間だって」ともう一度声をかけますが、その声も耳に入っていない様子。「ダンゴ虫もお部屋に帰るんだって。どこで帰してあげる？ころころの中庭？それともここで帰す？」と聞きました。「ころころでかえす」と返事は返ってきましたが、まだその場を動こうとしません。先に担任が歩き始めると、しばらくしてA君もころころに向かって歩き始めました。中庭に入り「どこに帰す？」と聞きましたが、やっぱり心残りのようでなかなか帰せません。担任が思い切ってバケツを傾けると、ダンゴ虫が滑り台を下りるように出てきました。A君の顔に笑みが浮かびます。「さあ、お部屋に行こう」と促しますが、地面にうつ伏してしまい「もっと見たかった！」と泣き出しそう。やり取りが煮詰まってしまった状態を変えようと、担任は一旦その場を離れ、しばらくしてもう一度尋ねました。「どうしたの？」「まだダンゴ虫見たかった」とA君。「(まつのき保育園で) おやつ食べたら、またここに戻っておいで」と逃がした場所を指さしました。「戻ってきたら、きっとまたここにダンゴ虫いるからね」と伝えると、じっと地面を見たあと、納得し部屋に戻っていきました。

大人がコントロールするのではなく、子どもに決定権をゆだねて「自分で決める」ことで主体性を育てていきたいと思えます。



☆ほし☆

<自由遊び～玩具を介して友だちと遊び込む～>

登園後や食後に、子ども達が好きな遊びを選んでじっくり楽しむ時間を設けています。子ども達が大好きな遊びの一つに【ころころスロープ】があります。一人の子が「ころころスロープ出して」と言って作り始めると、「一緒にあそぼう」「仲間に入れて」と遊びが始まります。イメージを持ちながら友だちと組み立てたり、そこに憧れのまなざしをもって、やってみようと遊びを始める子達もいます。時には自分の思いが優先して、友だちとの思いが通じ合わずに怒れてしまうこともあります。職員が仲立ちをして双方の気持ちを整理することで、継続して遊びを楽しめるようにしています。

友だちと一緒に遊ぶことは、遊ぶ楽しさを味わうのは勿論、相手のことを知り、仲間とのふれあいを楽しみ、人とつながる楽しさの根っこに繋がります。今後も友だちと一緒に遊ぶ楽しさを十分に感じられるような活動を取り入れていきたいと思っています。

<バスを作ろう ～イメージ豊かに遊ぶ楽しさを～>

段ボール廃材を使って遊びました。「何に見える？」と子ども達に話すと「バス」との声があがりました。「素敵なバスを作ってみよう」と話すと「いいよ」とノリノリの子ども達です。イメージしたものがうまくかけない子もいたので、そのような子は職員が思いを聞き取りながら一緒に作りました。世界にひとつしかない自分だけのオリジナルバスが出来上がり、模造紙に道路や町を描いてみんなで走らせました。「火事です！」と職員が火事をクレヨンで表現すると、「消防車です」と見立て・つもり遊びをして、イメージ豊かに遊びました。